

第3章 本プランが目指す「すみだ」の将来像



1 本プランが目指す「すみだ」の将来像

前プランでは「みんなで創る環境にやさしい持続可能な『すみだ』」を将来像に掲げ、区民・事業者・行政の協働のもと、二酸化炭素排出量の削減、資源循環、まちの緑化等多様な環境施策を推進してきました。しかし、気候危機の深刻化と国内外での脱炭素化への取組の急速な進展を踏まえると、より大胆な挑戦と迅速な行動が不可欠です。

そこで、今回のプランでは、2050年カーボンニュートラルへの明確な道筋を示し、「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」の実現を確実なものとするため、以下を2035年に向けた新たな将来像とします。

一人ひとりが未来を創る ゼロカーボンシティすみだ

この将来像は、従来の「みんなで創る持続可能なまち」という協働の精神を継承しつつ、「ゼロカーボンシティ」という明確なゴールと、「一人ひとりが未来を創る」という主体的な行動への呼びかけを一体化したものです。

これまでの「みんなで協働」の理念を発展させ、行政主導の枠を超えて、家庭・企業・学校・地域団体・観光客を含む「すみだに関わる全ての人」が主体となって未来を共に創造する「共創」へとステップアップさせ、日常の小さな行動変容から革新的なイノベーション創出まで、幅広い取組を積極的に推進する姿勢を示します。そして、かけがえのない地球を、墨田区の環境を、誇りを未来の子どもたちへ引き継ぐため、「ゼロカーボンシティすみだ」の実現に向けた施策を力強く展開していきます。

すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言

本区では、2021（令和3）年10月5日に「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」を表明しました。

この宣言は、地球温暖化を防ぐための行動を加速させ、区民・事業者・区の協働により脱炭素社会に向けたまちづくりを推進し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指すものです。

墨田区 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

すみだゼロカーボンシティ2050宣言
～脱炭素社会の実現を目指して～

墨田区は、かけがえのない地域を未来の子どもたちに引き継ぐため、「環境にやさしいまち・すみだ」の実現に向けた取組を積極的に推進しています。

しかし、近年、世界中及び日本において、温暖化気象現象による自然災害が

増加し、私たちの生活や経済を脅かすとともに、医療衛生にも大きな影響をもたらし

ています。

2018年に公表された国連のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書

では、2060年以前には世界の二酸化炭素排出量を正確ゼロにする必要があること

が示されました。また、2015年に国連で採択されたSDGsでは、地球上の「誰一人取り残さない」という理念とし、持続可能な社会の実現を掲げています。

我が国においては、2020年に「2050年カーボンニュートラル」が宣言され、東

京都市においても、2019年に同様の宣言が行われています。

これを踏まえ、墨田区においては、持続基盤社会を防ぐための行動を加速してい

くため、2050年二酸化炭素排出実質ゼロの実現を目指す「すみだゼロカーボンシ

ティ2050」を宣言し、区民・事業者・区が協働するこにより、脱炭素社会の実現に

向けた取り組みを推進していきます。

2021（令和3）年10月5日

● ゼロカーボンシティすみだのイメージ ●





2 2035年の墨田区のイメージと基本目標

プランが掲げる将来像「一人ひとりが未来を創る ゼロカーボンシティすみだ」の実現に向けて、2035年度における「すみだ」の姿を5つの分野で描きました。

これらの将来イメージは、目指すべき基本目標として位置付けられます。区民・事業者・区が協働し、創造的なアプローチで、これらの目標の実現に向けた取組を推進していきます。

基本目標1:ゼロカーボンシティすみだの実現

脱炭素化に向けた行動が日常生活に浸透し、当たり前のものとなっています。家庭や事業所において、「デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）」が定着し、脱炭素に向けたあらゆる取組を将来世代へとつなぐ体制が整いつつあります。建築物の面では、住宅や事務所、公共施設において、高度な断熱技術と高効率設備の導入が進んでいます。地域で使用される電力の大部分は再生可能エネルギーで賄われ、蓄電池の活用と相まって、電力の地産地消が実現しています。

交通インフラも進化し、歩行者や自転車にも優しい道路には、災害時の電源としても活用可能な次世代自動車*が行き交っています。これらの取組により、年間を通じて快適な居住環境が維持され、ストレスや疲労が軽減されるなど、快適で健康的な生活環境が実現しています。さらに、再生可能エネルギー設備や次世代自動車が非常用電源として機能することで、災害時の不安が軽減され、日常生活における安心感が向上しています。

基本目標2:安全・安心・快適な生活環境の確保

身近な生活環境への意識や配慮が区民や事業者に浸透し、環境基準が達成され、空気や水の安全が保たれています。地域の美化活動においては、区と区内企業等の協働による清掃活動や路上喫煙禁止及び放置自転車追放の啓発活動を行っています。

その結果、清潔で良好なまちの景観が維持され、環境に関する苦情やトラブルも減少しています。これにより、日常生活での不快感やストレスが軽減され、「区民の地域に対する愛着と誇り（シビックプライド）」が高まるとともに、まちの価値や魅力も向上しています。

また、気候変動リスクへの備えも進んでおり、短時間の集中豪雨による浸水被害や熱中症の発症リスクが低減されています。これらの気候変動への適応策は、安全・安心の確保に寄与するだけでなく、災害による経済的損失の回避にもつながっています。

基本目標3:自然共生社会の実現

河川テラスの整備や活用、区民・事業者による地域の緑化活動の推進により、水辺と公園、まちがつながり、誰もが身近に自然に親しめる環境が整備されています。これにより、生物多様性が守られるとともに、公園や緑地の整備を進め、本区が進めている雨水活用（雨水タンクの設置）との相乗効果を発揮し、大雨等による浸水被害が抑制されています。また、公園の自然資源がフィールドワークや環境学習の場として活用され、自然観察や生きものとの触れ合いの機会が多様に創出されています。

水や緑、花、生きものとの日常的な触れ合いは、リラックス効果やストレス軽減をもたらし、自然とのつながりによる癒しを提供しています。さらに、緑化活動や自然観察イベントへの参加を通じて、世代や立場を超えた交流が促進され、地域コミュニティの活性化にもつながっています。

基本目標4:循環型社会の実現

家庭や事業所での2Rが徹底され、ごみの排出量が着実に減少しています。食品ロスは、区民の意識や行動の変化に加えて、事業者の環境配慮型の取組や、飲食店等の柔軟な対応・創意工夫が広がっており、削減が進んでいます。プラスチックについては、資源回収が定着し、区内での循環システムが形成されています。回収されたプラスチックは区内事業者によって再利用され、墨田区ブランドの製品として生まれ変わり、プラスチック資源の区内循環が実現しています。

これらの取組は環境保全と地域経済の活性化に貢献しています。プラスチックごみの削減により、河川や海の生きもの等の生態系や水環境の維持・回復が進んでいます。さらに、区内資源を活用した製品の普及は地域のブランド力を向上させ、リサイクルや再利用を通じた新しいものづくりの発想やデザインを生み出し、区内事業者の活性化をもたらしています。

基本目標5:環境活動を実践するまちの実現

区民一人ひとりが環境問題に関して当事者意識を持ち、家庭、学校、職場など様々な場面で考え、学び、自主的かつ積極的に環境行動を実践するまちが実現しています。特に、未来を担う子どもたちの環境行動が契機となり、区民や事業者の間にも環境行動の担い手となる機運が高まり、共創の輪が広がっています。さらに、区民、事業者、環境ボランティア、区などによる環境行動のネットワークが構築され、環境関連情報を共有する仕組みが整備されています。これにより、効果的かつ先進的な取組が区内全域に普及しています。

区民は自らの環境行動が社会や未来に貢献している実感を得ることで、ウェルビーイングを高めています。同時に、環境保全を重視する文化が社会全体に根付き、協調的で持続可能な社会の育成につながっています。

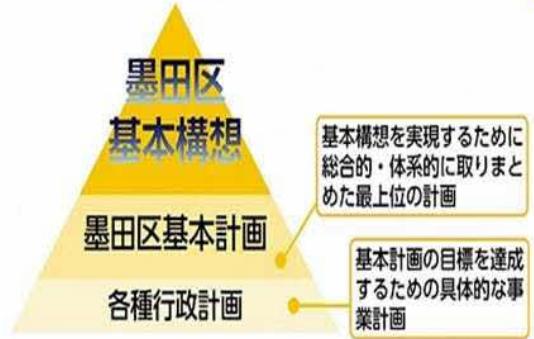


墨田区が目指す未来のまちの姿

「基本構想」とは、墨田区が目指す未来のまちの姿を描き、まちづくりの方向性を示すもので、区が最も大切にしていくビジョンです。

2025(令和7)年9月に議決された「墨田区基本構想」では、2035年に墨田区がありたい姿を「人がつながり 夢をカタチに 墨田区」として掲げ、まちづくりの方向性を示しています。

環境分野においても、この理念を体現する取組として、多様な主体の連携と協働が実現しています。具体的には、すみだ環境共創区民会議を中心に、区民・事業者・行政が一体となって環境課題の解決に取り組んでいます。また、様々な民間企業や民間団体、大学等の教育機関、環境ボランティアとの協働を通じて、地域に根ざした環境保全活動を展開しています。



【『みんなで話そう！ミライのすみだ』墨田区基本構想区民ワークショップの意見】

